

Sunshine 第8回 Lessons

Lesson 8-1: be 動詞の肯定文② (he / she / it / this / that)

ここで学ぶのは、主語が he / she / it / this / that (または、これらの代名詞に言い換えることができる名詞) の時の「be 動詞の肯定文」についてです。作り方は、簡単。なぜなら、主語が I / you / we / they の時とほとんど同じだからです！唯一の違いは、be 動詞に is が使われるという点です (he / she / it / that の場合、主語と be 動詞をくっつけて he's / she's / it's / that's とすることも可)。

【be 動詞の肯定文②：基本の形】

主語 + is + ○○.

(意味：「主語は○○です」)

<○○の部分には「形容詞」「名詞」「形容詞+名詞」などが入る>

- <例> He is (He's) Taichi. (彼はタイチです)
She is (She's) a good student. (彼女は良い学生です)
This is my room. (こちらが私の部屋です)
Everyone is tired. (みんな疲れています)

【ポイント！】

1. it / this / that の使い分け

使い分けは、基本的に「それ = **it / that**」「これ・こちら = **this**」「あれ・あちら = **that**」となります。「それ」という意味の it / that の使い分けが気になりますよね？実は、it / this / that は、「it = **人称代名詞**」「this / that = **指示代名詞**」と分けることができます。

<人称代名詞>

基本的に、もうすでに何について話しているか分かる場合に使われる代名詞で、前の文に登場した名詞の繰り返しを避けるために使われます。ちなみに **I / you / we / he / she / they** も人称代名詞です。

<指示代名詞>

これ・それらのように「人・物・事」を指し示す時に使われる代名詞（「すでに話題にでた“それ”なら **it**、「あなたが手にしている“それ”なら **that** が使われる）。

2. everyone / every student といった every~ は、単数形

「みんな」と主に訳される everyone や、「全生徒」と訳される every student など、every~ の形は、複数形のように思えて実は単数形になります。そのため、be 動詞は is が使われます。

<例> Everybody is tall. (みんな背が高いです)

3. 形容詞としても使える **this / that**

「これ / それ」という意味の **this / that** ですが、「この / その」という意味の形容詞としても使うことができます。

<例> **This bag is big.** (このカバンは大きいです)

I like **that restaurant.** (私はあのレストランが好きです)

Lesson 8-2: be 動詞の否定文② (he / she / it / this / that)

be 動詞が **is** の時の否定文は、他の **be** 動詞の文と同様、**is** の後に **not** を足してあげれば完成となります (**is not** を **isn't** と短縮させることも可。また、**he's not / she's not** と **he / she / it / that** と **be** 動詞を短縮させ、**not** を足す形も可)。

【is の否定文：基本的な形】

主語 + **is not (isn't)** + ○○.

「主語は○○ではありません」

<例> 彼女は先生ではありません。

→ **She is not (isn't) a teacher.**

ケン、アメリカ出身ではありません。

→ **Ken is not (isn't) from America.**

これは、私の車ではありません。

→ **This is not (isn't) my car.**

あの学校は大きくないです。

→ **That school is not (isn't) big.**

【is の否定文の作り方】

ステップ 1: **is** の「肯定文」を作る。

ステップ 2: **is** の後に **not** を足す。 (**isn't** とすることも可)

<例 1 : 彼女は先生ではありません>

ステップ 1 : **is** の肯定文を作る。 → 彼女は先生です。

_____ **She is a teacher.** _____

ステップ 2 : **is** の後に **not** を足す。 (**isn't** とすることも可)

_____ **She is not (isn't) a teacher.** _____ (She's not a teacher. も可)

<例 2 : ケンは、アメリカ出身ではありません>

ステップ 1 : **is** の肯定文を作る。 → ケンはアメリカ出身です。

_____ **Ken is from America.** _____

ステップ 2 : **is** の後に **not** を足す。 (**isn't** とすることも可)

_____ **Ken is not (isn't) from America.** _____

Lesson 8-3: be 動詞の疑問文② (he / she / it / this / that)

そして、is の疑問文の作り方は、他の be 動詞の疑問文の作り方と同じ。肯定文の be 動詞を文頭に持ってくれば完成となるからです。

【is の疑問文：基本的な形】

Is + 主語 + ~ ?

「主語は～ですか」

<例> 彼は先生ですか。 → Is he a teacher?
これはあなたの机ですか。 → Is this your desk?

【is の疑問文の作り方】

ステップ 1 : is の「肯定文」を作る。

ステップ 2 : is を文頭に持ってきて、最後を? に変える。

<例：彼は先生ですか>

ステップ 1 : is の肯定文を作る。 → 彼は先生ですか。

_____ He is a teacher.

ステップ 2 : is を文頭に持ってきて、最後を? に変える。

_____ Is he a teacher?

【be 動詞の疑問文：答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の 2 種類。(注意：ここでいう代名詞とは、he / she / it)

Yes, 代名詞 is .

代名詞と is を短縮させることも可能。

<例> No, he's not. など

No, 代名詞 is not .

is と not を短縮させた形を使うのが一般的 (No, he isn't. など)。

am not の短縮形は存在しない。(amn't = ×)

<例> Is he a teacher?

はい → Yes, he is.

いいえ → No, he isn't. / No, he's not. / No, he is not.

(No, this isn't. / No, this is not = ×)

Lesson 8-4: 疑問詞④ Who

ここでは「誰?」という意味の Who、「何?」という意味について学んでいきます。他の疑問詞同様、特徴は「**文頭で使われる**」ということです。そして、これらの疑問詞の後には疑問文の形 (be 動詞の疑問文、一般動詞の疑問文、など) が入ります。

【Who を使った疑問文：基本の形】

Who + 疑問文?

<例> Who is he? (彼は誰ですか)
Who do you like? (あなたは誰が好きですか)

【Who を使った疑問文の作り方】

- ステップ 1: 疑問詞の部分 (誰) に**同じ種類の「適当な単語」**を入れて疑問文を作る。
ステップ 2: 入れた「適当な単語」を **who** に戻す。
ステップ 3: who を**文の先頭に持ってくる**。

<例：彼は誰ですか>

- ステップ 1: 疑問詞の部分 (誰) に**同じ種類の「適当な単語」**を入れて疑問文を作る。
「誰」の部分「ジョン」に変える → 「彼は**ジョン**ですか」

_____ Is he **John**?

- ステップ 2: 入れた「適当な単語」を疑問詞 (who) に戻す。

John → **who** に戻す。

_____ Is he **who**?

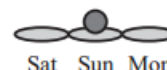
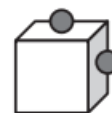
- ステップ 3: **Who** を文の先頭に持ってくる。

_____ **Who** is he?

Lesson 8-5: 前置詞⑤ (on / into / under)

1. **on** = ~ (の上) に / (壁) に (貼ってある) / ~ (曜日・日・週末など) に・は
<何かに接している、または乗っているイメージ>

<例> My bag is on the desk. (私のカバンは机の上にあります)
Your schedule is on the wall. (あなたのスケジュールも壁にあります)
I am busy on ¹Sundays. (私は、毎週日曜日は忙しいです)



Sat Sun Mon

曜日を複数形にすると「毎週○○曜日」「(一般的に)○○曜日」となる (every ○○ とほぼ同じ意味)。

【ポイント！】

1. 2つの日（月曜日と水曜日など）をいう場合は「on ○○ and △△」となる

<例> I am busy on Mondays and Wednesdays. (私は月曜日と水曜日は忙しいです)
(I am busy on Mondays and on Wednesdays. = ×)

2. weekend（週末）にも on が使われ、weekends とすると「毎週末」「一般的に週末に」となる

<例> I play soccer on weekends. (私は毎週末サッカーをします)

3. 「～のチームにいる」という場合、be on ○○'s team と前置詞は on/ in となる

<例> He is on our team. (彼は私たちのチームにいます)

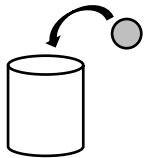
*一般的に on はアメリカ英語、in はイギリス英語。

4. 「△△を身につけている○○」「△△を着ている○○」という場合、○○ in △△ となる

「△△を身につけている○○」という場合、「体に接している」ということから、前置詞は on を使うかと思いきや、実は in が使われます。基本的な形は、○○ in △△。その理由は「その服の中に入っている」というイメージでとらえられるからです。ただし「これから服を身につける（まだ身につけていない）」という場合は、put（置く/つける など）という動詞に on を付けて put on のように on が使われることもある。

<例> The lady in the kimono is my mother. (着物を身につけている女性は私の母です)
Put on your socks. (靴下を履いて)

2. into = (内部に向かうように) ～の中に (へ・に向かって) <内部へ入っていくイメージ>



<例> You can go into the house (あなたは家の中へ行くことができます)
Don't jump into the water. (水の中に飛び込まないで)

【よく使われる get into】

get into は「～に乗り込む」「(大学・会など)～の中に入る」などの意味でよく使われる。

<例> get into the car (車に乗り込む)
get into Kyoto University (京都大学に入る)

3. under = ～の下に / ～の真下に <何か下にくっついている。あるいは下にあるイメージ>

<例> Your bag is under the table. (あなたのカバンはテーブルの下にあります)
Let's sit under the tree. (木の下に座りましょう)

